

(2016.6)「ヘイトスピーチ解消法」や「オール川崎」の力がヘイトスピーチ中止に追い込む

6月5日、中原区の中原平和公園前から武蔵小杉駅前までヘイトスピーチデモが計画されました。しかし十数人程度のヘイトデモ参加者に対し、数百人規模の市民が抗議に集まり、ヘイトデモを中止に追い込みました。テレビなどでも報道されたのでご覧になった方も多いと思います。

5月24日に「ヘイトスピーチ解消法」が国会で可決成立、30日には日本共産党や全市議の要望も受けて川崎市はヘイトデモ主催者に対し公園使用不許可を決定、6月2日には横浜地裁川崎支部が、ヘイトデモは表現の自由の保障の範囲外だと結論付ける、仮処分決定を行いました。「ヘイトスピーチ反対」の運動が「オール川崎」に発展するなかで、くらしの相談センターも重要な役割を果たしました。

ヘイトデモが川崎ではじめて行われた2013年5月から、「カウンター」といわれる市民の反対行動が行われてきました。

センターだよりに「ヘイトスピーチ」を掲載

2014年7月、相談センターにカウンターのPさんが来訪し、当番の私に「片柳さんも川崎でのヘイトデモに反対してほしい」と要望されました。当日、私が「ヘイトスピーチ反対」のチラシを配っていると、大いに歓迎されました。

同10月のヘイトデモ以後は、私も後援会の皆さんや、センターのスタッフの方にもご協力頂いて「ヘイトスピーチ反対宣伝」を行いました。

2015年7月には「くらしの相談センターだより」の「ご存知ですか」のコーナーに、ヘイトスピーチ反対の運動をしている『クラック川崎』から寄稿して頂きました（以後もう一度「ヘイトスピーチ」をテーマに掲載）。また、こうした交流から、地域の「盆踊り」「祭り」などにもカウンターのみなさんが協力していただくようになるなど、協力が発展しました。

一点共闘が「オールかわさき」へと大きく発展したのは、2015年11月それまで川崎駅周辺で行われていたヘイトデモが、在日コリアン集住地域の桜本で行われたことがきっかけでした。その際の抗議行動には約300人が参加。当初のコースを変更させ迂回させることができました。

「ヘイトスピーチを許さない」市民ネットワーク結成

それを機に、2016年1月23日に「『ヘイトスピーチを許さない』かわさき市民ネットワーク」が結成されました。川崎市内の労組や宗教団体、自民党の影響下にある団体も参加し、政党では日本共産党・民主党・公明党の各市議団、各政党の地方組織もふくめ計100を超える団体が参加しました。

このネットワークが、法律を制定し、ヘイトスピーチをさせない大きな役割を發揮しました。

